

草津市の図書館 運営計画

2020-2024

後期運営計画



草津市立図書館

草津市立南草津図書館

— 目 次 —

第 1 章	計画の策定にあたって	1
	1. 計画策定の趣旨	
	2. 計画の位置付け	
	3. 計画期間	
第 2 章	図書館をめぐる現状	4
	1. 社会的背景	
	2. 図書館を取り巻く背景	
	3. 草津市に関する動き	
第 3 章	前期計画の振り返りと今後の課題	7
	1. 前期計画における主な成果	
	2. 今後取り組むべき主な課題	
第 4 章	計画の基本方針と施策の基本方向	11
	1. 計画の基本方針	
	2. 施策の基本方向	
	3. 草津市立図書館と草津市立南草津図書館の機能	
第 5 章	施策の展開	14
	1. 図書館サービスの質を高める	
	2. 図書館運営の充実を図る	
第 6 章	計画の推進に向けて	20
	1. 計画推進にあたっての連携	
	2. サービス分析数値の設定	

【資料編】

- ・ 草津市の図書館の沿革
- ・ サービス概要
- ・ サービス分析数値

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

昭和 58(1983)年 7 月に草津市立図書館を開館して以来、移動図書館「わかくさ号」の運行やインターネットによる蔵書検索、湖南 4 市による広域貸出サービスの実施等、今日まで図書館サービスの拡大に努めてきました。平成 14(2002)年には、草津市立南草津図書館を開館し、草津のまちの発展と人口増加が続く中、図書館に求められる利用者ニーズの高度化、多様化に対応し、さまざまな図書館サービスに取り組んで来ました。

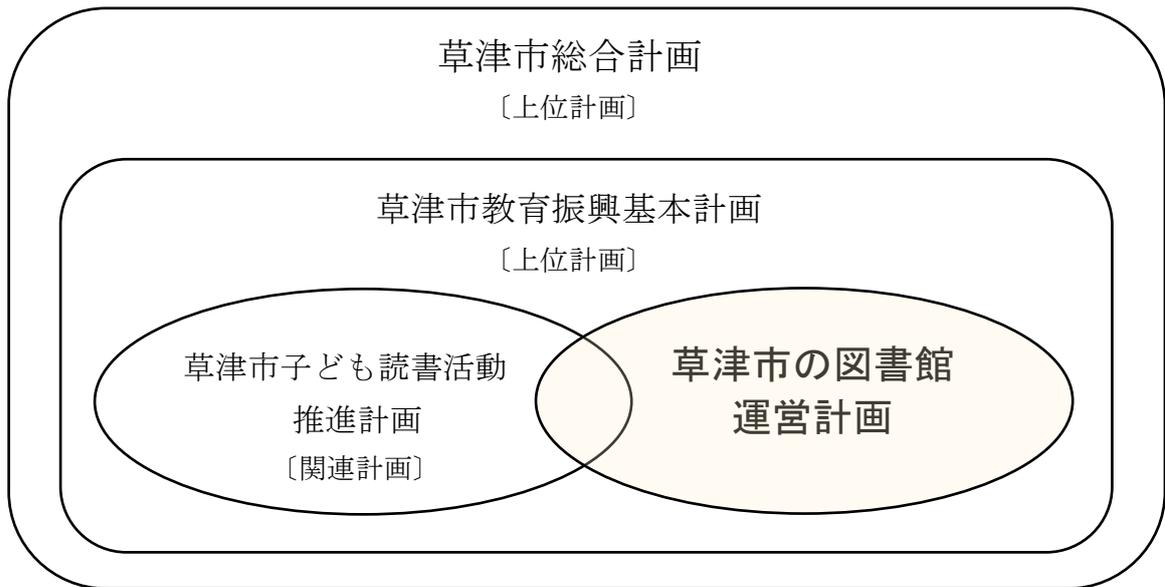
平成 22(2010)年には、「草津市図書館の運営を考える懇話会」(全 3 回)を開催し、同懇話会から今後の図書館運営について「図書館の専門業務は委託しない」「図書館協議会の設置」の提言がなされ、平成 23(2011)年には、「草津市図書館協議会」を設置しました。

平成 24(2012)年に草津市立南草津図書館が開館 10 周年、平成 25(2013)年に草津市立図書館が開館 30 周年を迎えたことを機に、平成 26(2014)年に草津市図書館協議会から図書館の基本計画策定に向けた提言を受け、草津市の図書館の方向性を示した『草津市の図書館運営計画』を平成 27(2015)年 3 月に策定しました。

本計画の期間は平成 27(2015)年度から令和 6(2024)年度までの 10 年間としています。前期の 5 年が経過するのに伴い、「図書館サービスに関する施策」の方向性や事業内容について点検・評価による見直しを行い、後期の令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度までの 5 年間の事業の実施の方向性を明確に示すことを、この後期運営計画策定の目的とします。

2. 計画の位置付け

本計画は、『草津市総合計画』および『草津市教育振興基本計画』を上位計画とし、『草津市子ども読書活動推進計画』やその他の関連計画と整合性を保ちながら、施策を総合的、一体的に推進するための計画と位置付けます。



計画の位置付け

3. 計画期間

本計画の期間は、平成 27(2015)年度から令和 6(2024)年度までの 10 年間とし、中間年度である令和元(2019)年度までの 5 年(前期)をめどに、後期へ向けた計画策定の見直しを行いました。

令和 6(2024)年度には、本計画の成果と課題を検証しつつ、計画期間を令和 7(2025)年度から令和 16(2034)年度とする『第 2 次草津市の図書館運営計画』を策定する予定です。

平成										令和							
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
										第5次総合計画						第6次総合計画 →	
教育振興基本計画										第2期教育振興基本計画			第3期教育振興基本計画				
子ども読書活動推進計画					見直し		第2次子ども読書活動推進計画			第3次子ども読書活動推進計画							
										草津市の図書館運営計画							
										前期(調整期間)		見直し	後期(実施時期)				

第2章 図書館をめぐる現状

1. 社会的背景

(1) 人口減少・超高齢化社会・「人生100年時代」の到来

本市の人口は、住宅開発の増加や公共交通機関の高い利便性などによる人口流入を受けて、増加傾向にあります。しかしながら、全国的には、人口の推移と将来の推計を見ると、65歳以上の人口が増加し、子どもの人口が減少する傾向となっており、本市においても少子高齢化が進行すると予測されます。このような人口構造の急速な変化の中で、「人生100年時代」を豊かに生きる「生涯にわたる」学びの推進がなお一層重要になってくると考えられます。

(2) 情報通信技術（ICT）社会の進展

近年、インターネットの普及等による、情報通信技術（ICT）は私たちの日々の生活や子どもたちの教育現場に浸透し、社会基盤を形成しつつあります。このような、社会のグローバル化・情報化による高度情報化社会は、今後もより深く市民生活に密着したものとなり、市民のライフスタイルにますます変化をもたらすものと考えられます。

(3) 生涯学習社会の実現の方向性

文部科学省は、教育基本法を踏まえた『第2期教育振興基本計画』の「自立」「協働」「創造」の三つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を継承しつつ、現在、『第3期教育振興基本計画』に基づき、生涯にわたる一人ひとりの「可能性」や「チャンス」の最大化に向け、新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の検討や、職業に必要な知識やスキルを、生涯を通じて身に着けるための社会人の学び直しの推進など、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進に取り組んでいます。

また、中央教育審議会が、平成30(2018)年12月にまとめた「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、今後の社会教育の在り方として、人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、「社会教育」を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりが一層重要であるとされ、その上で、新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」が提示されています。

2. 図書館を取り巻く背景

(1) 公立図書館の設置と望ましい基準

平成24(2012)年12月に「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正告示されました。

この改正では、市町村立図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料(電磁的記録を含む。)や情報の提供等、利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した運営に努めることを運営の基本とする指針が示されています。

(2) 図書館に関する行財政改革の動き

総務省は、歳出の効率化を推進する観点から、民間委託等の業務改革を実施している地方団体の経費水準を地方交付税の基準財政需要額の算定に反映するトップランナー方式の取組を推進しました。その際、「財源保障機能を適切に働かせ、住民生活の安心・安全を確保することを前提」としていることから、平成30(2018)年度においても、「教育機関、調査研究機関としての重要性に鑑み、司書、学芸員等を地方団体の職員として配置することが適切である」「専門性の高い職員を長期的に育成・確保する必要がある」「関係省や関係団体において、業務の専門性、地域のニーズへの対応、持続的で継続的な運営の観点から、各施設の機能が十分果たせなくなることが懸念される」「実態として指定管理者制度の導入が進んでいない」との観点から図書館への導入は見送られました。

3. 草津市に関する動き

(1) 第5次草津市総合計画第3期基本計画

『第5次草津市総合計画第3期基本計画』の推進にあたっては、人口減少社会の到来を見据えた施策や、本市の重要なテーマである「「健幸都市」づくりの推進」「子育て・教育の充実」「“まちなか”を活かした魅力向上」「コミュニティ活動の推進」の4つをリーディング・プロジェクトとして位置付けています。

図書館については、(分野別施策)「人」が輝くまちへ (基本方針)「生涯学習・スポーツの充実」の位置付けで、「生涯学習機会の充実」の施策概要に、「市民の多様なニーズに対応するため、大学等と連携した幅広い学習機会の提供や、学習ボランティアの育成・活用とネットワーク化を進めるとともに、多種多様な図書資料の充実に努め、図書館の利用を促す情報発信を積極的に行います」と記されています。

(2) 第3期草津市教育振興基本計画

この計画では、基本理念を「子どもが輝く教育のまち・出会いと学びのまち・くさつ」と定め、『第3期草津市教育振興計画』では、以下の4つを基本方向として挙げています。

- ①「子どもの生きる力を育む」
- ②「学校の教育力を高める」
- ③「社会全体で教育を進める」
- ④「歴史と文化を守り育てる」

「出会い」は人との出会いだけでなく、心揺さぶる読書体験や芸術体験、異文化に接したときの驚きと感動、自然や生き物と接することによって知るいのちの尊さ、地域の歴史を知ることでの郷土への愛着心等、学びは出会いから始まるといっても過言ではありません。本市はさまざまな人やものを通して、豊かな学びを広げ、誰もが生きがいを感じられる「出会いと学び」の実現を目指します。

第3章 前期計画の振り返りと今後の課題

1. 前期計画における主な成果

前期計画にある、図書館サービス施策

- (1) 日々の生活に潤いを与え、心豊かな人づくりに役立つ図書館
 - (2) 地域の中の情報拠点として、まちづくり、地域づくり、すべての市民に役立つ図書館
 - (3) 未来を担う子どもの育成を推進し、子どもの成長に役立つ図書館
 - (4) 草津の歴史文化を未来に伝える図書館
- に基づいて取り組んできました。

(1) 日々の生活に潤いを与え、心豊かな人づくりに役立つ図書館

- ① 市民の課題解決と主体的な学習を支援する情報提供に必要なレファレンスサービスの充実を図りました。

「市民へのPR」「資料情報の充実」

「司書のスキルアップ研修」

- ② 多くの市民に図書館を利用していただくための広報活動を強化しました。

「HP情報の充実」「SNSを活用した情報発信」

「市職員向けPRの実施」

(2) 地域の中の情報拠点として、まちづくり、地域づくり、すべての市民に役立つ図書館

- ① 市民に役立つ健康・医療情報、法情報、行政施策情報や就労支援、ビジネス支援に関する資料充実に努めました。
- ② 高齢者・障害者・外国人向け資料の充実と資料紹介(展示)を行いました。

(3) 未来を担う子どもの育成を推進し、子どもの成長に役立つ図書館

- ① 前期計画時は未実施だった事業を実施し、年齢対象別事業の充実に取り組みました。

「乳幼児と保護者向けおはなしのじかん(木曜おはなしのじかん)」「キッズデーの設定」「絵本のひろば」「スクスクリーフ(YAキャラクター)による広報活動」「高校連携交流会」「POP交換」等

②子育てを応援し、子どもの交流機会に関する情報提供と支援の充実を図りました。

「一歳半健診時読書相談や家庭教育サポート事業」、「フェイスブック・ぽかぽかタウンでの行事情報発信」等

③学校連携において、「巡回図書「ブックン」」や「出張ブックトーク」等、小・中学校との連携を図りながら事業内容の充実に努めました。

(4) 草津の歴史文化を未来に伝える図書館

①郷土資料、街道資料を積極的に収集し提供を行いました。

②歴史文化財課や草津宿街道交流館と連携し、市民講座の開催や資料展示を行いました。

【行政効果】

● 図書の貸出サービスにより、市民一人あたり 223 円で 11,952 円分の図書等を利用することができました。図書館の貸出サービスにより、草津市全体で約 13 億 8 千万円の行政効果が生まれました。

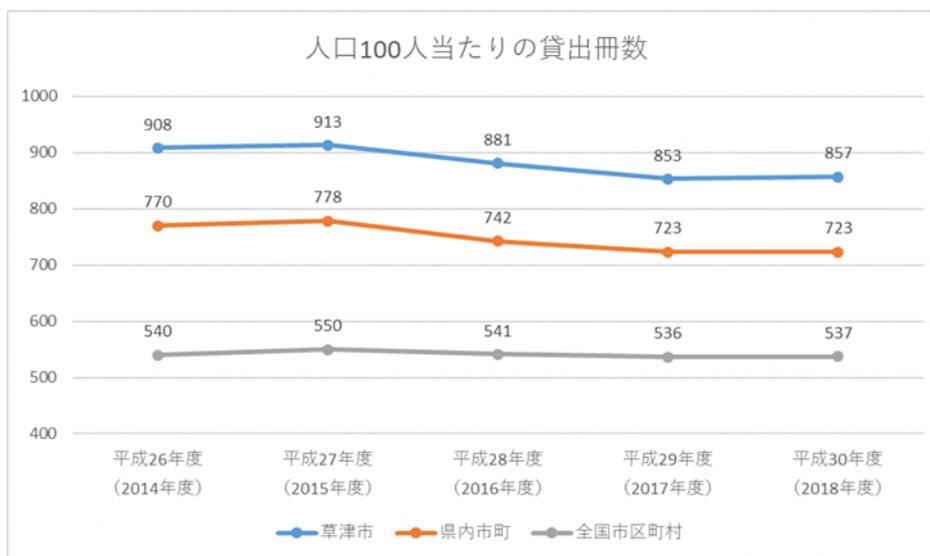
		H30 年度 実績指数	算出式 (数値は H30)
資料受入	人口一人あたりの受入冊数(寄贈含・図書のみ)	0.1293 冊	$\frac{\text{受入冊数}(17,186)}{\text{人口}(132,885)}$
	資料購入の平均単価	1,394 円	$\frac{\text{資料購入費}(29,620 \text{ 千})}{\text{年間購入点数}(21,246)}$
	市民一人あたりの資料購入費	223 円	$\frac{\text{資料購入費}(29,620 \text{ 千})}{\text{人口}(132,885)}$
	市民一人あたりへの還元額	11,952 円	$\frac{\text{平均単価} \times \text{個人貸出冊数}(1,139,367)}{\text{人口}(132,885)}$
行政効果	総図書館費	210,7 千円	図書館費に正規職員の人件費を含めた、図書館運営にかかる総経費。
	行政効果	1,377,645 千円	$\text{平均単価} \times \text{個人貸出冊数}(1,139,367) - \text{総図書館費}(210,747 \text{ 千})$
	市民一人あたりの行政効果	10,367 円	$\frac{\text{行政効果}(1,377,645 \text{ 千})}{\text{人口}(132,885)}$

この行政効果は、貸出サービスだけで算出した効果です。図書館のはたらかきは、レファレンスなどの情報提供サービス、おはなし会や本の展示等の行事活動、点字図書や録音図書製作などの障害者サービスなど、貸出サービスの貸出サービスの他にも様々な行政効果を生み出しています。

様々な事業充実のために、UDCBK、みな☆クサひろば等、市役所内の他課・他機関との連携強化についても積極的に行ってきたところです。このようなことから、貸出冊数や子どもと本をつなぐ図書館事業について成果が見られました。

【人口100人当たりの貸出冊数】

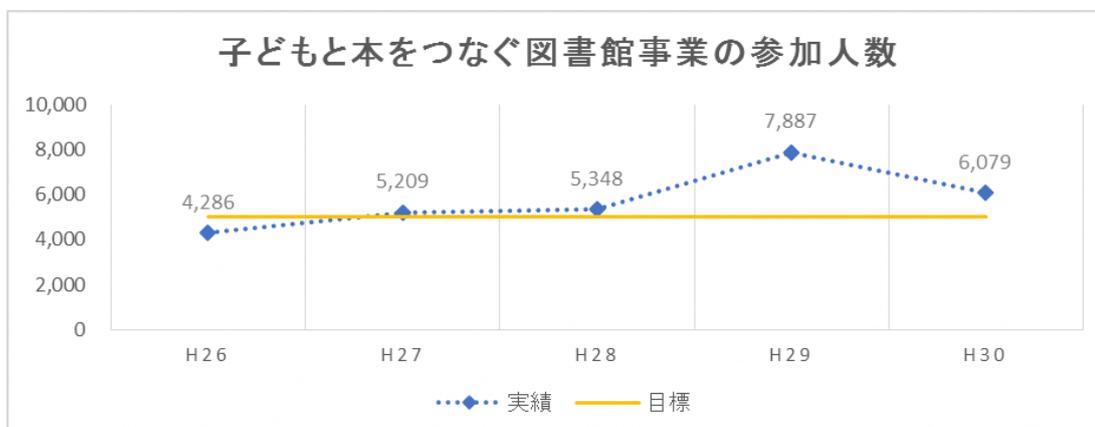
- 県、国と比較すると各年度とも本市の方が高く、平成29(2017)年度は本市853冊/100人で、県723冊/100人の1.18倍、国536冊/100人の1.59倍となっています。



出典：第3次草津市教育基本計画

【子どもと本をつなぐ図書館事業の参加人数】

- 平成26(2014)年度4,286人から年々増加し、平成30(2018)年度は6,079人となっています。



出典：第3次草津市子ども読書活動推進計画

2. 今後取り組むべき主な課題

- 地域の中の情報拠点として、まちづくり、地域づくり、すべての市民に役立つ図書館となるよう、すべての人がいきいき暮らせるための情報提供の充実を図る必要があります。
- 市内各地域の特徴(人口構造等)にあわせた全域サービスを行う必要があります。
- 前期の主な成果事業を維持し、充実した図書館サービスを継続して提供する必要があります。

草津市の図書館は、後期計画期間の令和 4(2022)年に草津市立南草津図書館が開館 20 周年、令和 5(2023)年に草津市立図書館が開館 40 周年を迎えます。図書館は、地域住民の図書館利用の権利、知る権利・読む自由の保障や民主主義社会の実現にとっての基礎的な施設であることを自覚し、改めて、地域住民への資料・情報提供を基礎としたサービスの展開を柱にその役割を果たすと共に、目まぐるしい社会環境の変化に対応しながら、「市民のための図書館」としてその機能の充実を図る必要があります。

第4章 計画の基本方針と施策の基本方向

1. 計画の基本方針

草津市の図書館は、昭和58(1983)年に草津市立図書館の開館以来、地域住民に密着した「貸出サービス」、「児童サービス」、「全域サービス」を運営方針として位置づけ、取り組んできました。市民一人ひとりの「知りたい・学びたい」気持ちに誠実に対応し、資料提供に努めることの地道な積み重ねによって、現在、草津市の図書館は全国的にもトップクラスの利用を誇っています。移動図書館「わかくさ号」の運行による、遠隔地への対応は、図書館へ足を運べない市民の身近な図書館として全域サービスの柱となっています。さらに学校や市役所内の他課や他機関との連携によるサービスの充実や県内初のIC化による図書館システムの運用等、社会の変化に伴う市民のライフスタイルの変化やニーズにも柔軟に対応してきました。今後も図書館運営の基本を大切にしながら、「市民のための図書館」としての機能を充実させ、さらに発展させていきます。

前期では、来館される利用者のためだけの図書館から、市民全体のための図書館とはどうあるべきかを意識し、積極的に市民へアプローチしながら、新たな図書館利用者の拡大や自らの活動フィールドの拡大に努めるよう、基本方針を「利用者のための図書館から、市民のための図書館」としました。後期ではさらにもう一步前進した姿を目指し、図書館運営計画の10年間の区切りに、草津市の図書館のあるべき姿を完成させられるよう、

基本方針

『さらに、市民のための図書館へ』

と定め、地域住民への資料提供・情報提供を基礎としたサービス展開を柱にその役割を果たすと共に、めまぐるしい社会環境に対応した図書館として、以下のような図書館像を目指します。

2. 施策の基本方向

基本方針「さらに、市民のための図書館へ」の実現を目指し、「図書館サービスの質を高める」「図書館運営の充実を図る」を基に取り組みます。

(1) 図書館サービスの質を高める

- ① 日々の生活に潤いを与え、心豊かな人づくりに役立つ図書館
 - ・市民の興味関心に応え、くらしの中での課題解決や主体的な学習を支援する情報の提供
 - ・市民の多様なライフスタイルや読書要求に対応した図書館サービスの構築
 - ・多くの市民に図書館を利用していただくための広報活動の強化
- ② 地域の中の情報拠点として、まちづくり、地域づくり、すべての市民に役立つ図書館
 - ・すべての市民がいきいき暮らせるための情報提供
 - ・他の図書館や地域の大学等との連携・協力による、高度かつ幅広い市民ニーズへの対応
- ③ 未来を担う子どもの育成を推進し、子どもの成長に役立つ図書館
 - ・子どもの感性や人間性を育む読書活動の支援
 - ・子育てを応援し、子どもの交流機会に関する情報提供
 - ・市立図書館の持つ専門性を活かした学校図書館充実のための支援
- ④ 草津の歴史文化を未来に伝える図書館
 - ・心を豊かにする文化や芸術に触れる機会に関する情報提供
 - ・郷土の歴史や地域文化、民俗文化、伝統文化・工芸等、歴史や文化に関する情報の収集
 - ・琵琶湖、環境および自然文化に関する情報の収集

(2) 図書館運営の充実を図る

- ① 図書館資料の収集（蔵書構成計画）
- ② 図書館の環境整備
- ③ 図書館職員の人材育成

3. 草津市立図書館と草津市立南草津図書館の機能

草津市は現在2つの図書館が設置されており、両館ともに市民の身近な地域館としての機能を有しています。両館が立地するそれぞれの地域の特長や利用者の特徴を活かした取り組みを行います。

(1) 草津市立図書館の機能

草津市立図書館は、市のほぼ中心に位置し、地域館としての機能を持ちつつ、全市域での図書館の中核として、草津市立南草津図書館、各学校図書館、市内関係機関等との連携機能を強化し全市域での図書館サービスを目指します。

- ①移動図書館車や学校連携事業などを中心とした、全市域の図書館サービス網の機能軸を集約し、市内各地域の特徴(人口構造等)にあわせた全域サービスを実施します。
- ②全市域の目標設定、計画設定、評価等を行い、総合企画立案の機能の充実を図ります。
- ③学校図書館や他の施設・他機関、団体との連携強化を図ります。
- ④市民ボランティアとの連携・協力に関するネットワーク機能の充実を図ります。
- ⑤読書会・研究会等に会場の提供、絵画展・書道展等にギャラリー(大会議室)の貸出を通して、文化諸活動援助と市民が芸術や文化に触れる機会の充実を図ります。

(2) 草津市立南草津図書館の機能

草津市立南草津図書館は南草津駅前の立地を活かした地域館としての図書館を目指します。

- ①南草津駅前という立地条件を活かし、様々な市民が通勤・通学や買い物などの途中で気軽に立ち寄れる身近な地域館としての図書館サービスを行います。
- ②子育て世帯の多い地域として、子育て支援の機能を充実し、子ども同士や保護者同士での交流を含めた子ども向けサービスの充実を図ります。
- ③立命館大学びわこ・くさつキャンパスの最寄り駅である南草津駅前という立地から、学生のニーズを把握し、ボランティア活動や交流の場の提供を意識した学生へのサービスの実施に努めます。

第5章 施策の展開

基本方針「さらに、市民のための図書館へ」の実現を目指し、「図書館サービスの質を高める」「図書館運営の充実を図る」を基に取り組みます。

1. 図書館サービスの質を高める

(1) 日々の生活に潤いを与え、心豊かな人づくりに役立つ図書館

- ・市民の興味関心に応え、くらしの中での課題解決や主体的な学習を支援する情報の提供
- ・市民の多様なライフスタイルや読書要求に対応した図書館サービスの構築
- ・多くの市民に図書館を利用していただくための広報活動の強化

方向性	主な施策・事業内容	前期		後期
		計画	実績	計画
市民の興味関心に応え、くらしの中での課題解決や主体的な学習を支援する情報の提供	①展示・ブックリスト作成(潜在要求の掘り起し、読書領域の拡大)	***	実施	実施
	②レファレンスサービスの充実(ツール・認知度・活用)	実施	実施	実施
	③最新の辞書・事典などの専門書を含んだ蔵書構成	策定 実施	実施	実施
市民のライフスタイルや読書要求に対応した図書館サービスの構築	④図書館利用案内の拡充(多言語・高齢者・障害者対応)	***	一部実施	実施
	⑤移動図書館による全域サービスの充実とステーションの見直し	見直検討 実施	実施	見直検討 実施
	⑥来館困難者(乳幼児の保護者・入院患者等)に対する郵送サービスの検討	***	検討	実施
	⑦電子書籍の情報収集と運用の検討	情報収集	検討	検討

多くの市民に図書館を利用していただくための広報活動の強化	⑧図書館HPやOPAC※の充実	実施	実施	実施
	⑨市域イベントの図書館PRのための移動図書館運行	実施	実施	実施
	⑩「図書館だより」・「こどものしゅうへん」の全校配布	実施	実施	実施
	⑪新小学1年生、中学1年生、高校1年生向け広報紙の配布	実施	実施	実施

※OPAC(Online Public Access Catalog)：オンラインによる蔵書目録

(2) 地域の中の情報拠点として、まちづくり、地域づくり、すべての市民に役立つ図書館

- ・地域活動の場として、図書館活用の促進
- ・すべての市民がいきいき暮らせるための情報提供
- ・他の図書館や地域の大学等との連携・協力による、高度かつ幅広い市民ニーズへの対応

方向性	主な施策・事業内容	前期		後期
		計画	実績	計画
地域活動の場として、図書館活用の促進	⑫ビブリオバトル等の参加型イベントの開催	実施	実施	実施
	⑬コミュニティ情報(地域ミニコミ誌を含む)の収集と提供	検討	実施	拡大
	⑭市民協働による事業の開催	実施	実施	実施
すべての市民がいきいき暮らせるための情報提供	⑮大活字本、外国語の資料収集と資料紹介	実施	実施	拡大
	⑯点訳・音訳・拡大写本の製作・提供	実施	実施	実施
	⑰高齢者・障害者への配本サービス	実施	実施	拡大検討
	⑱子ども食堂等への読書活動支援	***	実施	実施
	⑲『健幸都市くさつ』に関連する資料の収集と情報提供	***	実施	実施

	⑳農業や商工業、あおばな、愛彩菜、ねずみ大根などの地場産業関係の情報紹介	実施	実施	実施
	㉑ビジネス支援等に関する情報収集と提供	***	実施	実施
	㉒他施設、他機関との連携	実施	実施	拡大
他の図書館や地域の大学等との連携・協力による、高度かつ幅広い市民ニーズへの対応	㉓県内外図書館との相互貸借と連携	実施	実施	実施
	㉔県内図書館との情報交換	実施	実施	実施
	㉕大学図書館との相互利用	検討	実施	実施

(3) 未来を担う子どもの育成を推進し、子どもの成長に役立つ

図書館

- ・子どもの感性や人間性を育む読書活動の支援
- ・子育てを応援し、子どもの交流機会に関する情報提供と支援
- ・市立図書館の持つ専門性を活かした学校図書館充実のための支援

方向性	主な施策・事業内容	前期		後期
		計画	実績	計画
子どもの感性や人間性を育む読書活動の支援	㉖子ども向けカリキュラムの充実	検討 実施	実施	拡大
	㉗おはなしのじかん	実施	実施	実施
	㉘おはなし会 野外おはなし会 夜(夕べ)のおはなし会	実施	拡大	実施
	㉙こどものつどい	実施	実施	実施
	㉚キッズデーの設定	***	実施	実施
	㉛絵本のひろば	***	実施	実施
	㉜クイズラリー	実施	実施	実施
	㉝読書講演会 子どもの本の教室	実施	実施	実施

	③④ Y A サービス	***	実施	拡大
	③⑤ スクスクリーフ (Y A キャラクター) による広報活動	***	実施	拡大
	③⑥ 高校連携交流会	***	実施	拡大
	③⑦ P O P 交換	***	実施	実施
子育てを応援し、子どもの交流機会に関する情報提供と支援	③⑧ ブックスタートや子育て世代への読書環境の啓発と支援	検討 実施	実施	実施
	③⑨ 乳幼児と保護者向けおはなしのじかん(木曜おはなしのじかん)	***	実施	実施
	④⑩ 一歳半健診時読書相談	***	実施	実施
	④⑪ 小学校保護者対象の読書啓発(家庭教育サポート事業)	***	実施	実施
	④⑫ フェイスブック・ぼかぼかタウンでの行事情報発信	***	実施	実施
	市立図書館の持つ専門性を活かした学校図書館充実のための支援	④⑬ 巡回図書「ブックくん」の実施	実施	実施
④⑭ 学校への出張ブックトークの実施		実施	実施	実施
④⑮ 学校教育活動に即した資料の収集・提供		実施	実施	実施
④⑯ 学級貸出セットの充実		***	実施	拡大
④⑰ 学校クラス単位での団体貸出の実施		実施	実施	拡大
④⑱ 小学校3年生(2年生、特別支援学級含む)による、図書館見学の受入		実施	実施	実施
④⑲ 中学生による職場体験の受入		実施	実施	実施
⑤⑰ 学校図書館との連携交流		実施	実施	実施

(4) 草津の歴史文化を未来に伝える図書館

- ・心を豊かにする文化や芸術に触れる機会に関する情報提供
- ・郷土の歴史や地域文化、民俗文化、伝統文化・工芸等、歴史や文化に関する情報の収集
- ・琵琶湖、環境および自然文化に関する情報の収集

方向性	主な施策・事業内容	前期		後期
		計画	実績	計画
心を豊かにする文化や芸術に触れる機会に関する情報提供	⑤① 図書館における文化芸術の発表の場の提供	実施	実施	実施
	⑤② 文化芸術振興の成果の収集・保存	検討 実施	実施	実施
郷土の歴史や地域文化、民俗文化、伝統文化・工芸等、歴史や文化に関する情報の収集	⑤③ 郷土の歴史資料や街道資料の収集と提供	実施	実施	実施
	⑤④ 草津宿街道交流館等関連の他施設・他機関との連携	実施	実施	実施
琵琶湖、環境および自然文化に関する情報の収集	⑤⑤ 琵琶湖や環境資料の収集	実施	実施	拡大
	⑤⑥ 水生植物公園みずの森、琵琶湖博物館等関連の他施設・他機関との連携	***	検討	実施

2. 図書館運営の充実を図る

(1) 図書館資料の収集（蔵書構成計画）

草津市立図書館と草津市立南草津図書館が、ともに見直しを行った選書基準と除籍基準を基に、それぞれの分野の蔵書構成計画を作成します。

また、滋賀県立図書館のバックアップ体制や県内外の図書館、国立国会図書館との協力・連携体制のもと、市民一人ひとりの「知りたい・学びたい」気持ちに誠実に対応し、資料提供に努める地道な積み重ねによって、資料のニーズを把握しながら草津市の図書館の蔵書に反映させていきます。

両館が連携した蔵書構成計画を持って、効率的な収集を行い、草津市の図書館の蔵書を将来にわたって構築していくことに努めます。

(2) 図書館の環境整備

図書館資料を購入して書架に配置するだけでは図書館利用者の満足度は高められません。市民の財産である図書館資料の幅広さや奥深さを知ってもらい、知的好奇心を刺激して、「読んでみたい」と思わず手に取ってしまうような工夫が必要です。様々な観点からテーマを取り上げた資料展示を積極的に行い、季節ごとの装飾やブックリストの発行、POP（本の紹介）等により貸出期間の3週間を目安に、来館したときにはいつも新しい本に出会えるよう努めていきます。そのためにも、図書館の「サイン計画」を行い、書架のサインやデザインの統一、ユニバーサルデザインに立ったレイアウト配置等に努めていきます。

また、館内におけるインターネット利用環境について、利用者の利便性向上のため、フリーWi-Fiの導入に取り組みます。さらに、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」の実施や新聞・法令情報等のオンラインデータベースによるレファレンス資料の充実を図ります。

草津市の図書館が、本と人、人と人との出会いの場となるよう環境整備に取り組みます。

(3) 図書館職員の人材育成

図書館サービス向上のためには、知識・技術・課題解決に資する能力をもつ専門性の高い職員の育成が求められています。図書館経営は、一定水準を保持した継続的な図書館サービスの展開が不可欠となっており、図書館という組織の中で、いかに図書館サービスの経験や専門スキルを蓄積・継承していくかが重要であり、そのために、市民の図書館ニーズに高い水準で応えられる司書のスキルの向上・育成を組織的に取り組む必要があります。

また、将来的な人員配置を見据えた年齢層に偏りのない正規職員の配置に努め、職員のスキルと長年培ってきたノウハウを、キャリアの浅い職員に継承していきます。

経営管理層については、地域社会の課題を的確に捉えつつ、人的資源、情報資源を効率的に活用しながら、持続的な質の高い図書館サービスを提供できる経営能力や将来計画を持った人材育成を行っていきます。

第6章 計画の推進に向けて

1. 計画推進にあたっての連携

本計画を効果的かつ着実に実施していくためには、学校・市役所内の他課や他機関・県内外の図書館・市民ボランティア等との連携・協働が重要です。それぞれの役割を意識し、効率的で効果的な連携の拡充に努めます。

2. サービス分析数値の設定

本計画のサービス分析数値の設定については、数値目標をかかげるものではなく、一定の図書館サービスの現状を常に分析するための成果数値を指標として設定します。

成果数値の指標設定については、他都市の図書館との比較が可能であるものとすべきであり、図書館奉仕人口（市域の人口）規模が同等の自治体のうち、上位10パーセントの平均を基準として分析を行います。

【資料編】 **草津市の図書館の沿革**

年	月	内容
S58(1983)	7	草津市立図書館開館
S59(1984)	5	移動図書館「わかくさ号」の巡回開始 (市内24か所)
H5(1993)	3	1階開架室および書庫を増築
H6(1994)	10	本市出身の元同志社大学学長故田畑忍氏の遺族から著書や哲学、政治、憲法に関する図書4,846冊の寄贈を受け、平成7(1995)年6月に「田畑忍文庫」を開設
H13(2001)	10	インターネットでの蔵書検索サービスを開始
H14(2002)	1	湖南3市2町(草津市、守山市、栗東市、野洲町、中主町)の公立図書館(室)の蔵書を検索できる横断検索システムを公開
	4	草津市立図書館が文部科学大臣から「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰 湖南3市2町の公立図書館の広域貸出サービス開始
	7	JR南草津駅前に草津市立南草津図書館開館
H19(2007)	10	インターネットおよび携帯電話からの予約・利用照会サービスを開始
H22(2010)	4	草津市立南草津図書館が文部科学大臣から「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰
	12	「草津市図書館の運営を考える懇話会」(全3回)を開催、同懇話会から、今後の図書館運営について「図書館の専門業務は委託しない」「図書館協議会の設置」の提言がなされる
H23(2011) ～ H25(2013)	...	3か年計画で草津市立図書館リニューアル工事を実施〔平成23(2011)年は外壁、平成24(2012)年は内装、平成25(2013)年は空調設備〕
H23(2011)	9	「草津市図書館協議会」を設置

H24(2012)	7	草津市立南草津図書館10周年記念講演会
	10	(第1回；7月)(第2回；10月)を開催
H25(2013)	4	小学生向き図書の寄贈を受け、市内小学校への図書巡回事業(愛称「ブックん」)を開始(巡回配本13校)
	10	湖南4市(草津市、守山市、栗東市、野洲市)の利用条件を一部変更
	11	草津市立図書館30周年記念講演会を開催
H26(2014)	4	草津市立図書館が文部科学大臣から「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰
	8	市内小学校図書巡回事業(愛称「ブックん」)への追加寄贈を受け、市内全校に常時配本を開始
		草津市図書館協議会から「図書館運営計画」策定の提言がなされる
	9	草津市立図書館の会議室一般貸出を有料化
草津市立図書館に図書消毒機を導入		
H27(2015)	3	「草津市の図書館運営計画」を策定
	5	草津市立図書館と草津市立南草津図書館にYA(ヤングアダルト)コーナーを設置
	10	移動図書館の運転委託を開始(市内20か所)
雑誌スポンサー制度を開始		
H28(2016)	6	草津市立図書館に朗読CDコーナーを設置
	8	草津市立南草津図書館に図書消毒機を導入
H29(2017)	3	草津市立図書館エレベータ入れ替え工事を実施
	4	生涯学習課・健康増進課との連携事業として、一歳半健診時読書相談を開始(月1回)
H30(2018)	1	草津市立図書館で屋上防水工事を実施
	10	図書館システム更新・IC機器、自動貸出機、管理ゲートの導入
市内中高生からYAコーナーキャラクターを公募、「スクスクリーフ」に決定		

サービス概要〔平成 30(2018)年度実績〕

(1)貸出

- ①貸出条件 1人15点まで、3週間以内
- ②団体貸出 100冊まで3か月以内

(2)移動図書館

- ①昭和59(1984)年5月から運行、現在20か所を隔週水・木・金曜日の月2回巡回
- ②積載冊数は約1,700冊

(3)返却ポスト

- ①JR草津駅東口・西口、JR南草津駅前フェリエ南草津中央入口に設置

(4)各種事業

- ①おはなしのじかん
毎週土曜日 絵本の開き読みや紙芝居等
- ②木曜おはなしのじかん
毎月第2木曜日(草津市立図書館)
毎月第4木曜日(南草津図書館)
乳幼児とその保護者を対象に行う手遊びや絵本の開き読み等
- ③おはなし会
毎月最終土曜日(草津市立図書館)、第2土曜日(南草津図書館)
大型絵本、紙芝居、おはなし等
- ④保育所・幼稚園・こども園・小学校の依頼によるおはなし会等の開催
- ⑤学校連携事業
 - *小学校への図書巡回(「ブックン」)
算数・環境、滋賀の作家、写真集、国語科教科書紹介本の4種類14セット約2,200冊の本を学期ごとに巡回
 - *テーマ別図書セットの団体貸出
うみのこ、やまのこ、米作り、昔のくらし、平和学習、新美南吉、宮澤賢治等、学習に合わせた内容の図書セット
 - *出張ブックトーク
学校に出向いて司書が行う本の紹介
(主に小学校高学年から中学生対象)

- *市内小学校等の図書館見学の受け入れ
- *市内中学校生徒の職場体験学習の受け入れ
- *市内高校生徒との交流会開催や図書紹介、POP交換
- ⑥市役所の他課・他機関連携事業
 - *一歳半健診時読書相談
 - *家読サポート事業
 - *UDCBK、ミナクサ☆ひろば、市民交流プラザ等との連携事業
- ⑦障害者・高齢者サービス
 - 障害者宅や老人ホーム等への配達による貸出
- ⑧「図書館だより」「こどものしゅうへん」の発行
 - 図書館内で利用者に配布のほか、保育所・幼稚園・こども園・小中学校等に配布
- ⑨文化諸活動援助のための施設貸出
 - 読書会・研究会等に会場の提供、絵画展・書道展等にギャラリー（主に大会議室）の貸出

サービス分析数値

サービス指標（算出根拠）		草津市	指標※1
図書館数	①設置密度（1館あたりの奉仕面積） （区域面積÷図書館数）	/	/
	②1館あたりの奉仕人口 （人口÷図書館数）	66.0千人	34.5千人
職員数	③司書率＝常勤職員における司書の割合 （有資格者数÷常勤職員数）	66.7%（正職）	52.6%（正職）
	④人口比水準＝職員一人あたり奉仕人口 （人口÷常勤職員数）	14,667人	7,263人
	<正職員数>	9人	19人
蔵書冊数	⑤蔵書密度＝市民一人あたりの蔵書図書冊数 （蔵書図書冊数÷奉仕対象人口）	3.8冊	5.0冊
購入冊数	⑥人口比水準＝市民千人あたりの図書購入冊数 （図書年間購入冊数÷人口千人）	126.8冊	176.9冊
登録者数	⑦登録率（登録者数÷奉仕対象人口） （ ）は有効登録率※2	41.7% (18.2%)	61.1%
貸出冊数	⑧貸出密度＝市民一人あたりの貸出冊数 （年間貸出冊数÷人口）	8.5冊	10.6冊
	⑨登録貸出密度＝登録者一人あたりの貸出冊数 （年間貸出冊数÷登録者数）	20.4冊	17.4冊
蔵書回転率	⑩蔵書回転率 （年間貸出冊数÷蔵書図書冊数）	2.3回	2.1回
	⑪購入図書回転率 （年間貸出冊数÷年間購入冊数）	67.1回	59.9回
業務量	⑫職員一人あたりの貸出冊数 （年間貸出冊数÷全職員数）	32,057冊	20,319冊
	⑬予約件数	128.5千件	260.7千件

※1：貸出活動上位の図書館のうち、人口10～15万人の市区町(平均124千人)における貸出密度上位10パーセントの市区町の平均数値で、国が地方自治体における図書館の「指標」及び「目標数値」として参考となるよう示したデータより算出
資料 『日本との図書館2018統計と名簿』（社団法人日本図書館協会 2019年）

※2：年間で1度以上利用した登録者数÷奉仕対象人口



YA（ヤングアダルト）コーナーキャラクター
スクスクリーフ

草津市の図書館運営計画 2020-2024 後期運営計画

令和2年3月発行

編集・発行 草津市立図書館

☎525-0036

草津市草津町 1547 番地

☎ 077-565-1818 FAX 077-565-0903

✉ library@city.kusatsu.lg.jp

草津市立南草津図書館

☎525-0059

草津市野路一丁目 15 番 5 号

☎ 077-567-0373 FAX 077-567-2357

✉ minami-library@city.kusatsu.lg.jp